高齢者等の買い物支援、生きがいづくりなどの複合的な支援

「ドライブサロン」

鹿屋市社会福祉協議会

地域共生社会に関する取組

高齢者 / 子ども / 若者 / 地域住民 / 障害者 / 生活困窮者 / 認知症の方 / その他

基礎情報		
	人口（R7.1月時点）	98,626人
	高齢化率（R7.1月時点）	31.0%
	要介護認定率（R7.1月時点）	18.8%
	取組の予算規模（年間）	-

詳細はHPから

鹿屋市社会福祉協議会
https://kanoyasyakyou.or.jp/pages/65/

取組概要

- 自ら交通手段を有しない高齢者等の交通弱者に対し、買い物等の交通手段を提供するとともに安否確認や健康状態の把握、閉じこもり予防や孤独感の解消、生きがいづくりなどを目的に実施している、移送を中心とする複合的な生活支援事業。

背景・きっかけ

- 市の地域課題として、街の中心部は商業施設や飲食店が充実し栄えているが、周辺は海、山、畑に囲まれており、そのため周辺地域の住民は車がないと生活できない環境であった。また、公共交通機関は減便が増えていた。
- そのような状況の中、社会福祉法人として「地域貢献をしたい」「何かできることはないだろうか？」と考え、ドライブサロンの取組を開始した。





ドライブサロンの様子

取組の経緯

- 地域の高齢者のニーズを直接把握するために、地域の会に参加した。
- 市公共交通活性化協議会で事業説明・意見交換。九州運輸局へ事業説明。
- 交通手段がなく買い物に困っている高齢者等を支援する取組がスタート。

「ドライブサロン」
鹿屋市社会福祉協議会

取組詳細

- **取組内容**
  - ①ドライブサロン（生活支援型）
    週1回福祉施設の車両で買い物を実施
  - ②ドライブサロン（生きがいづくり型）
    福祉施設の車両で遠足・買い物を実施
  - ③ドライブサロン＋（プラス）
    社協の車両を貸出し、地域福祉協議会で養成した地域の運転ボランティアが車両運行を担い、買い物支援を実施
- **実施体制**
  - ✓ 実施主体：社会福祉法人
  - ✓ 連携先：地域の社会福祉法人、地域のボランティア
- **財源**
  - ✓ 社会福祉法人の地域公益活動
  - ✓ 赤い羽根共同募金

成果

- バスの中では会話が弾み、笑い声が絶えない。ドライブサロンはただ外出に便利なだけでなく、地域の情報交換や安否確認など、住民同士の絆を深める機会にもなっている。

今後の展望

- ドライブサロンの新たな形態として、町内会に車を貸し出す仕組みを検討している。今後、市役所や町内会などと打ち合わせを行い詳細を決めていく予定である。

取組のポイント

- **住民と協議しながら取組の実現に至った**
- 対象地区で住民説明会を実施。社会福祉法人も出席していただくことで地域住民との顔つなぎにもなり安心していただくことができた。
- 活動の要望等もこの中であげていただき、直接施設と調整することができた。
- 買い物先や日時、集合場所等は地域住民で話し合って決めてもらった。